

1. 調査報告概要表

作成日 平成19年8月31日

【評価実施概要】

事業所番号	1073000133
法人名	医療法人 春香会
事業所名	グループホーム プランタンの家
所在地	群馬県みどり市大間々町桐原1570-203 (電話) 0277-72-0202

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大友町2-29-5
訪問調査日	平成19年8月22日

【情報提供票より】平成19年8月7日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成12年9月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤6人 兼務2人 非常勤2人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り 1階建ての 階 ~ 1階部分
------	------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	68,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	450 円	昼食	600 円
	夕食	550 円	おやつ	150 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 8月7日在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	2名	要介護2	4名		
要介護3	1名	要介護4	2名		
要介護5		要支援2			
年齢	平均 85.4歳	最低	80歳	最高	92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小保方医院 . 加孝歯科
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅外から離れた高台で併設の福祉施設が隣接されている静かな環境にホームはある。建物の南東には大きな出窓や中庭から自然光が多くそそがれ、明るく開放感がある環境である。今年中は庭の木に小鳥が巣作りをし、成長や巣立ちを見て楽しまれた様子である。併設の福祉施設の入所者と共に地域の方との交流を深めている。また、独自でボランティア(絵手紙や三味線等)を受け入れ生活に変化をつけている。職員は一人ひとり尊重し、介護計画に基づき、日々の暮らしの中で力を発揮してもらいながら楽しみのある生活を送れるように支援をしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>ホームの運営理念や事業内容等は運営推進会議で説明や報告を行い、地域に広報や啓発をしている。介護計画作成にあたり、本人や家族の意向を取り入れ、職員の気づきや情報を会議に持ち寄り、意見交換を行い介護計画の充実を図るように取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>サービス評価の意義や目的を全職員に伝え、全員で自己評価に取り組むようにした。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は定期的に開催されており、話し合いの中で献立をホーム便りに掲載してもらいたいとの要望があり掲載する等の取り組みをしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ホーム内に意見箱を設置、運営推進会議に家族の代表者が参加、年1回のアンケートを実施しており、意見や要望、苦情等を聞き運営に反映させている。また、来訪時にはいつでも、何でも言ってもらえるよう雰囲気づくりに配慮している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>新里の村祭り・赤堀の小菊の里・笠懸のひまわり祭り・貴船神社の初詣・大間々祭り等地域の行事に積極的に参加して、地域との連携を深める努力をしている。また、併設の福祉施設を会場に納涼祭や大間々の子供神輿の見学、地域のボランティア(絵手紙、三味線等)を受け入れて地域との交流をもっている。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	その人らしい生活の実現に向けての理念を掲げて支援をしている。	○	地域密着型サービスの意義を職員全員で話し合い、生活の継続支援と事業所と地域との関係性を盛り込んだ理念を検討されてはどうか。
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、日々の関わりの振り返りやケア会議等で、理念に触れ、話し合い共有している。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	併設の福祉施設を会場に納涼祭や大間々祭の子供神輿の見学、地域のボランティア(絵手紙、三味線等)の受け入れを通し地域との交流がある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を全職員に伝え、全員で自己評価に取り組むようにした。外部評価の結果は、改善に向けて検討や実践につなげる努力をしている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者状況やサービスの実際等の報告や話し合いを行っている。そこでの意見や要望(ホーム便りに献立を掲載する等)を活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所は介護相談員の受け入れ、市担当者の運営推進会議の参加、市の窓口にもホーム便りを送る等の連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に、利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理等について報告をしている。ホーム便りを発行し送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に意見箱を設置、運営推進会議に家族代表者が参加、年1回アンケートを実施し意見や要望を聞き運営に反映させるようにしている。また、家族来訪時に何でも言ってもらえるような雰囲気づくりにも配慮している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的には異動や交代はできるだけ最小限に行なうようにしており、引継ぎの期間を取り、利用者へのダメージを防ぐようにしている。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時は、併設の福祉施設で教育を行っている。外部研修には参加をするようにし、それらの研修報告は、全体会議で報告をしてもらい、資料は全職員で閲覧できるようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人の福祉施設との交流機会は持っているが、同業者との交流の機会は少ない。	○	管理者や職員は地域の同業者との交流をする機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質の向上に取り組んでほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人と家族の見学、デイサービス利用や居室が空いている時は宿泊を体験してもらうなど、安心して利用が出来るように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活を利用者と職員は協働して掃除、調理、庭の手入れ、レクリエーション等を行いながら、利用者の得意分野で力を発揮してもらい、お互いさまという関係性が築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時に、本人の希望や家族の要望を聞き活かしている。また、日々のかかわりの対応から、言葉や表情などからも把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の思いや意向を聞き、反映をさせるようにしている。アセスメントを含め職員全員で意見交換やモリタリング、カンファレンスを行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護認定更新時及び半年ごとの定期的見直しをしている。利用者の状態の変化に応じ随時見直しをしている。	○	安定している利用者の場合も、本人や家族の今の意向や状況を確認すると共に職員の情報や気づき、あるいは、変化の兆しに予防的に対応していくためにも、定期的見直し期間を検討してほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者への柔軟な支援はもとより、近隣の高齢者が状況に応じてショートステイやデイの利用ができるように、グループホームの多機能性を強化している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、利用前からのかかりつけ医での医療を受けることもできる。協力医の訪問診療、訪問看護師や協力医から看護師の訪問を受け健康管理が行なわれており、職員は気軽に相談や指導が受けられる体制がある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の対応は家族の意向を確認しながらかかりつけ医、訪問看護師を交え話し合いを行っている。また、状態の変化があるごとに、家族の気持ちを聞きながら方針を決めて支援をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ミーティングの折に、職員の意識向上を図るとともに、日々の関わり方を話し合い、利用者の誇りやプライバシーを損ねないよう配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの生活暦を重視し、自分のペースで気持ちよく過ごせるように支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養バランスに考慮し管理栄養士が献立を作成しているが、利用者の希望も配慮されている。調理、盛り付け、片付け等も利用者と共に、職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事ができるよう雰囲気づくりを大切にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員が一方向的に決めずに、利用者の体調や希望を確認して入浴していただいている。入浴拒否傾向の方には、入浴剤を入れるなどして、気持ちよく入れるよう工夫をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作りや食器を洗う・テーブルを拭く・お茶を入れる・絵手紙・園芸・書道等の利用者の得意分野で一人ひとりが、力を発揮できる場面を作っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や本人の気分や希望に応じて、日常的に散歩や玄関前のベンチで外気浴を行っている。買い物に行ったり、併設の福祉施設のダンス教室に参加したり、季節によって遠足、ドライブ、花見等を計画し、楽しみながら戸外にでる機会を作っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけずに、安全面に配慮しながら自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練、消火訓練を実施している。非常災害時には併設の福祉施設から救助を求められる体制ができています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を記録し、職員が情報を共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	南東に大きな出窓を配しているため、自然光が多くそそがれ、明るい雰囲気になっている。中庭からも自然光や庭木の緑も見られ、利用者は小鳥の巣作り、巣立ちが見られ楽しむことができた。	○	利用者の作品が壁に飾られているが、季節の混在が見られるので四季に応じた装飾に整理をしてほしい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	桐箆笥、仏壇、炬燵、家族写真、鏡台等馴染みの物が持ち込まれて、利用者の居心地のよい環境に配慮されている。		